

中山間地域におけるスマート農業活用事例②

津別町

※このあと、JA津別 有岡様に詳しくご紹介いただく予定です

携帯不感地域が多く存在





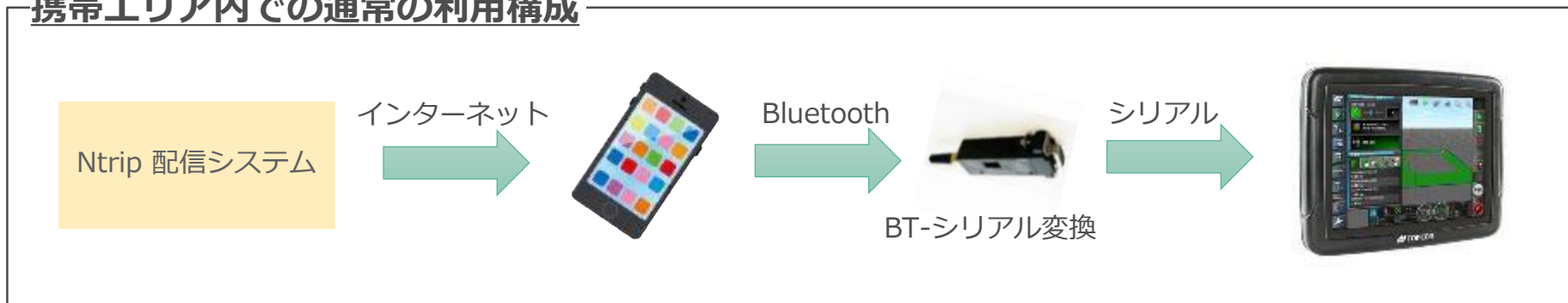
8月23日JA会議室にて35名出席のもと、令和5年度第2回津別スマート農業普及コンソーシアム会議を開催しました。会議内容は、有岡囑託より経過報告を行い、NTTコミュニケーションズ北海道支社 齋藤智巳主査と(株)インターネットイニシアティブ(IIJ) 齋藤透本部長が、各機器の説明と今後のスケジュールを説明しました。今後のスケジュールとして、気象センサーの設置やWi-Fi環境比較検証等を実施し取り進めていきます。不感地帯のモデル地区である最上地区に移動し現地説明会を行いました。水位センサー・RTK・LoRaWAN(ローラワン)が不感地帯においても作動することを確認しました。



津別町 最上地区で LoRaWAN を用いた RTK 伝送

- 携帯不感地域である最上地区で、LoRaWANを用いてRTKによる自動操舵を実現する試みにトライ中。

携帯エリア内での通常の利用構成



携帯エリア外でLoRaWANを利用した構成



中山間地の通信インフラ整備に向けた 国・自治体の支援制度

農山漁村振興交付金のうち 情報通信環境整備対策

【令和5年度予算額 9,070 (9,752) 百万円の内数】

<対策のポイント>

人口減少、高齢化が進行する農村地域において、農業水利施設等の農業農村インフラの管理の省力化・高度化やスマート農業の実装を図るとともに、地域活性化を促進するため、情報通信環境の整備を支援します。

<事業目標>

農業農村インフラの管理省力化等を図る情報通信環境の整備に取り組み、事業目標を達成した地区の創出（50地区〔令和7年度まで〕）

<事業の内容>

1. 計画策定事業

- ① 情報通信環境に係る調査、計画策定に係る取組を支援します。
- ② 事業を進める中で生じる諸課題の解決に向けたサポート、ノウハウの横展開等を行う民間団体の活動を支援します。

2. 施設整備事業

- ① 農業農村インフラの管理の省力化・高度化やスマート農業の実装に必要な光ファイバ、無線基地局等の情報通信施設及び附帯設備の整備を支援します。
- ② ①の情報通信施設を地域活性化に有効活用するための附帯設備の整備を支援します。
(スマート農業の実装のみを目的とする整備も支援対象となるよう拡充)



光ファイバ

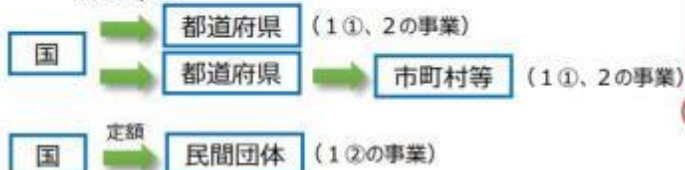


無線基地局

<事業の流れ>

定額、1/2等

※下線部は拡充内容



<事業イメージ>

スマート農業	農業農村インフラの管理の省力化・高度化	+ 地域活性化
 自動走行農機	 カメラ監視 自動給水栓 スマホ管理	 活性化施設の 公衆無線LAN
 ドローン 鳥獣害センサー ハウスの環境管理		

無線基地局は地域の実状を踏まえて適切な通信規格（LPWA、BWA、Wi-Fi、D-カル5G等）を選定

【お問い合わせ先】 農村振興局地域整備課 (03-6744-2209)

農業農村情報通信環境整備準備会

[入会案内 >](#)[🏠 トップページ >](#)[準備会について >](#)[構成員一覧 >](#)[事例紹介 >](#)[公開資料 >](#)[入会案内 >](#)[セミナーのご案内 >](#)[よくあるご質問 >](#)[関連法令・施策等 >](#)[用語集 >](#)[お問い合わせ >](#)

「ICT」で 農業が進む、農村が変わる。

～農業・農村にサステナビリティを。暮らしにさらなる豊かさを。
地域を想う人々の、未来に向けた環境づくりをお手伝いするために～

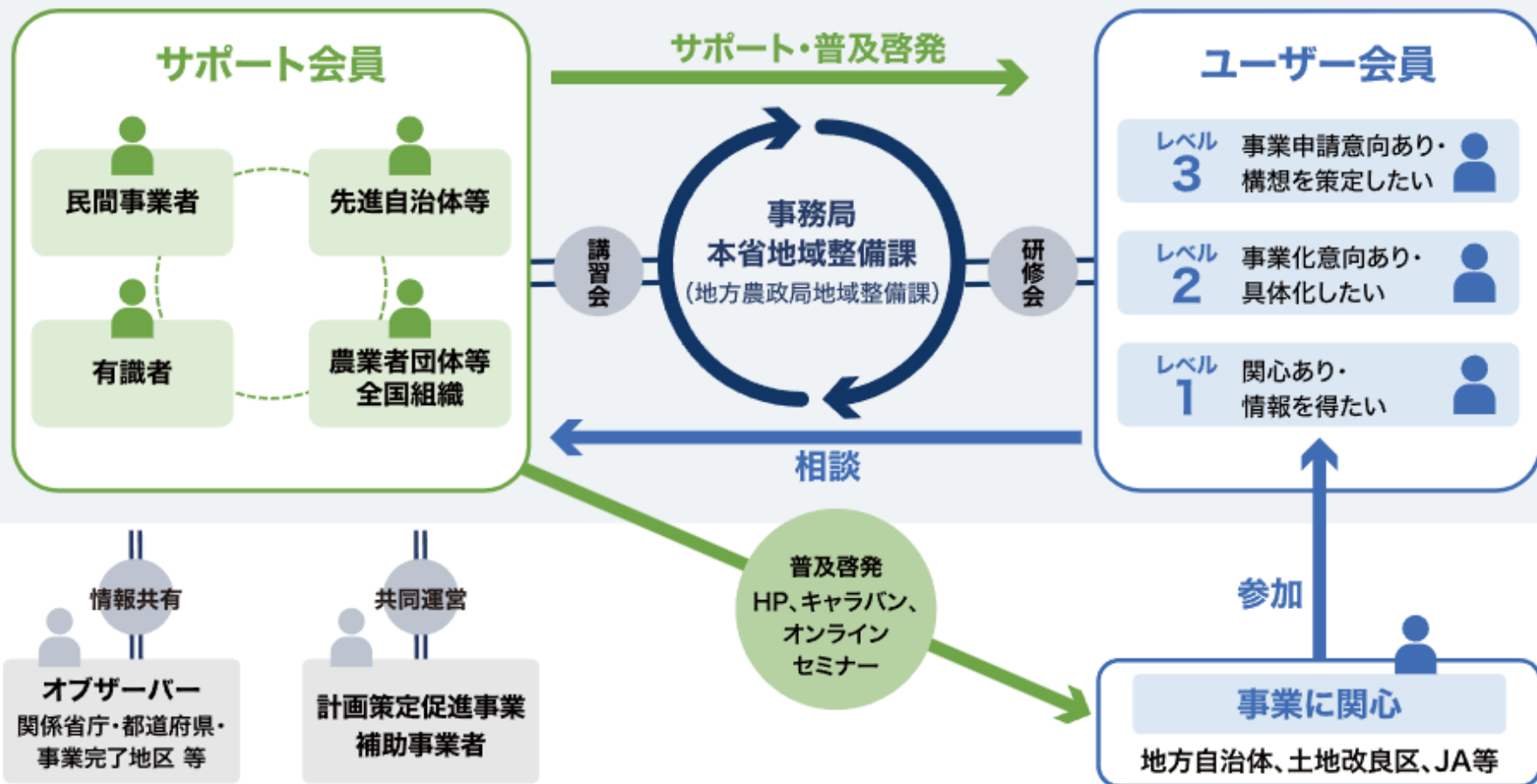
当会では、農業農村インフラの管理の省力化・高度化や
スマート農業の実装を図る中で、地域活性化にも活用できる情報通信環境を
整備する取組を幅広くサポートしていきます。

[詳しくはこちら](#)

準備会からのお知らせ News

2023年10月25日（水） 特別セミナー「スマート・アグリシティ岩見沢市現地視察」を開催します >

農業農村情報通信環境整備準備会【実施体制】



地域デジタル基盤活用推進事業のご案内

【事業の概要】

支援対象：地方公共団体、企業・団体など

※支援メニュー毎に対象条件が異なります。
詳しくは次頁以降をご参照ください。

① 計画策定支援

コンサルティング

何から着手すれば良いかわからない…



DXを進めていくための計画書を作成したい…



地域課題の洗い出し、優先順位を整理したい

デジタル技術を活用した地域課題解決のための課題整理、導入・運用計画策定等を専門人材が支援します。

令和5年9月20日
3次公募開始予定

② 実証事業

新しいソリューションアイデアの実用化



新しい通信技術（ローカル5G、Wi-Fi HaLowなど）を活用して、地域課題の解決を図るソリューションアイデアの実用化に向けた社会実証を支援します。

公募終了

③ 補助事業

地域の通信インフラの整備



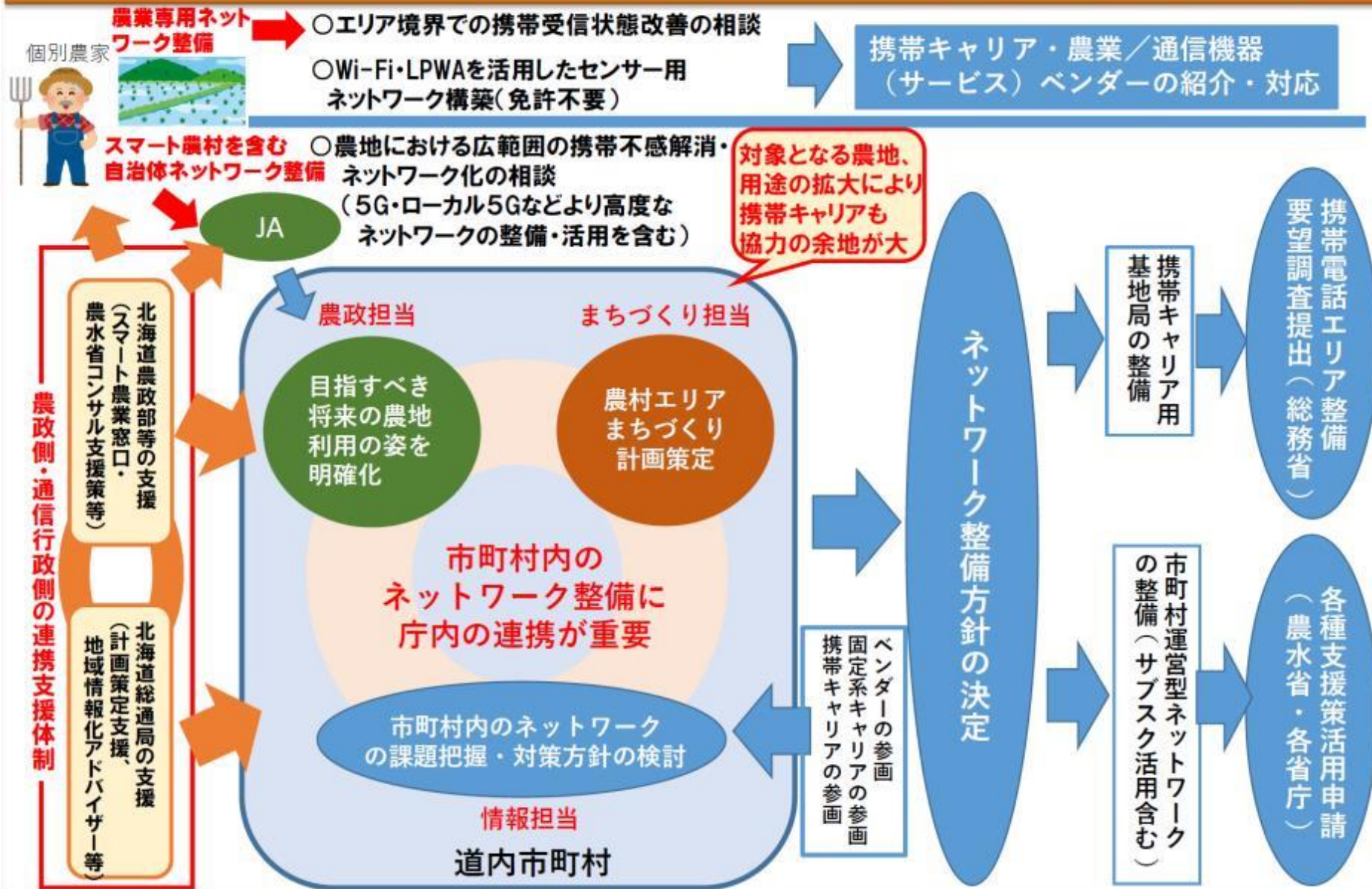
通信インフラ（ローカル5G、Wi-Fi、LPWAなど）の整備を伴う、デジタル技術による地域課題解決の取組を支援します。

補助率 1 / 2

(地方公共団体の負担分について →11頁)

3次公募受付中 (10月6日〆)

※上記に記載の日程は現時点での予定につき、変更が生じる場合があります。



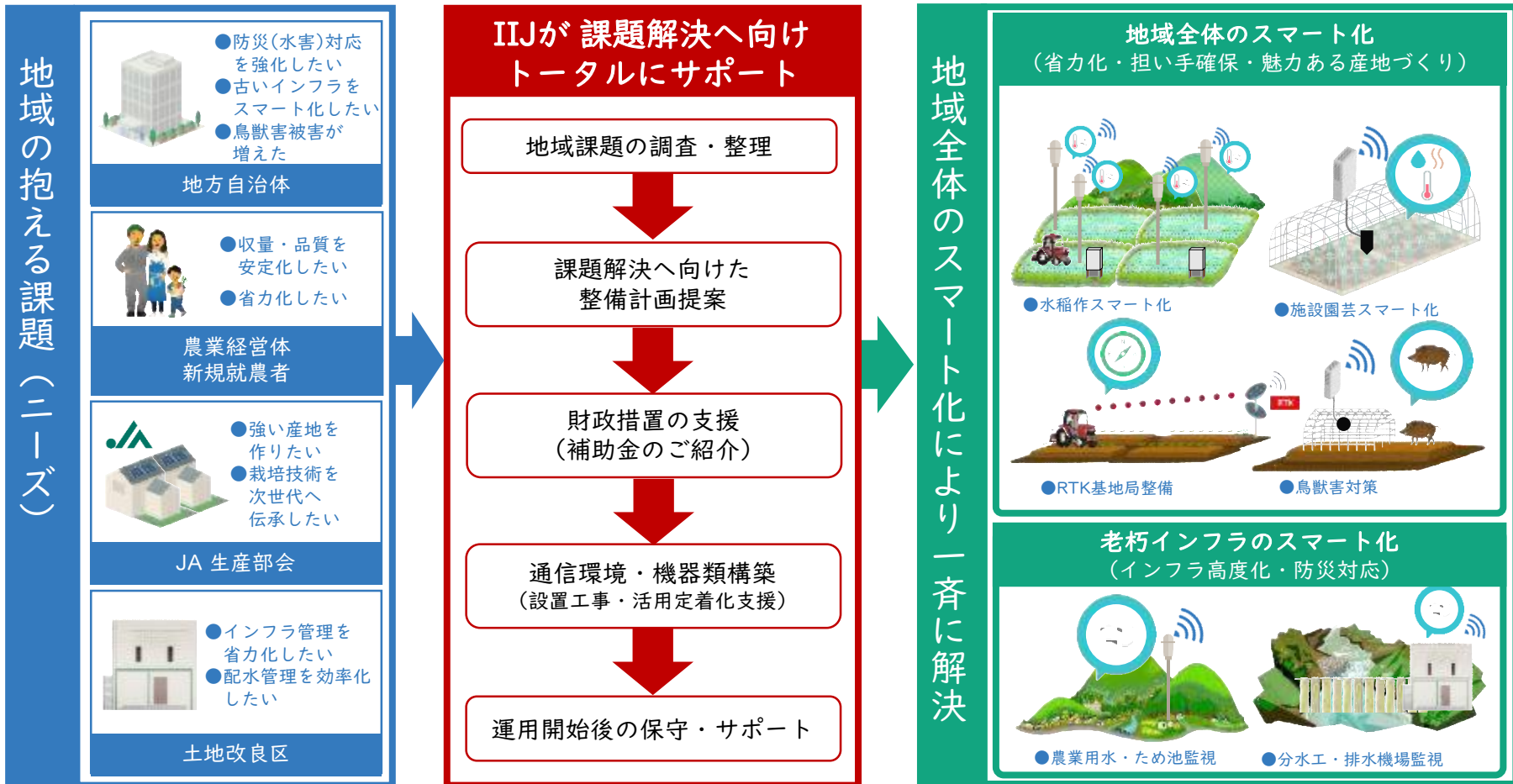
IIJの中山間地スマート農業への取組

■ IIJ IoTの取組領域



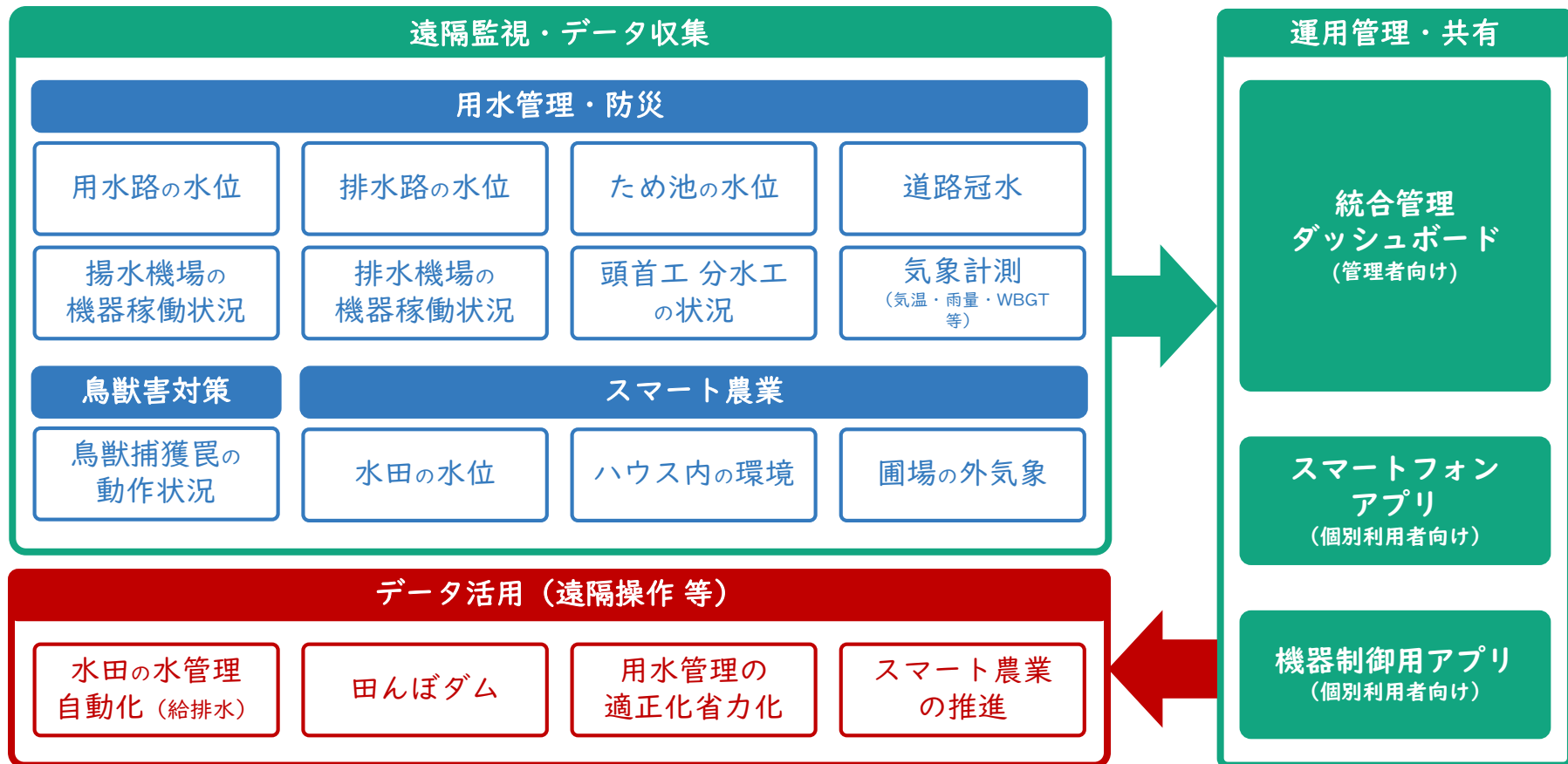
■ サービス概要

IIJの有するLoRaWANネットワークの整備・運用ノウハウを活かし、地域インフラの省力化・高度化やスマート農業を起点とした、地域活性化に資する地域全体の「スマート化」をサポートします。



■ 実現できること

「スマート農村インフラ MITSUHA」の有する様々な機能から、地域の課題解決に必要な機能をセレクトして整備。事後的な機能追加・拡張も、大規模な改修を行うことなく対応可能です。



- 中山間地という制約の多い環境であるからこそ、課題、ゴールの設定はとても重要。
 - 限られた資源(ヒト・モノ・カネ)の有効活用が必須
 - 技術ベースではなく、課題ベースで戦略・戦術立案を進める

- 生産者、行政、JA、土地改良区など、ステークホルダーの連携が重要。
 - 地域で一体となった取組が必須
 - 通信「インフラ」であるからこそ、二重投資を避けたい
 - 国や道の支援精度も今後さらに拡充していく方向

- 技術の進化は日進月歩
 - 最新技術に踊らされるべきではない、ものの、やはり情報のキャッチアップは必要
 - 設定している課題とマッチするか技術を見極め、判断するためにも展示会やセミナーなどでの積極的な情報収集が有効
 - 我々のような通信事業者の立場からも積極的に支援していきます！